

格付据え置きのお知らせ

株式会社富山第一銀行(頭取 横田 格)は、このたび株式会社日本格付研究所(JCR)より、以下のとおり格付を据え置く旨の通知を受けましたのでお知らせいたします。

1. 格付機関 : 株式会社日本格付研究所(JCR)
2. 格付 : 『**A**』(シングルAフラット)
3. 格付の見通し: 『安定的』
4. 格付の対象 : 長期発行体格付
5. 格付の主な評価理由
 - (1) 富山県に本店を置く資金量約1.2兆円の第二地方銀行。格付は、地元金融マーケットにおける一定のプレゼンス、健全性の高い貸出資産の質、充実した自己資本などを反映している。投信解約益を控除した実質的なコア業務純益は今後伸び悩む可能性はあるものの、ROA(実質コア業務純益ベース)は20/3期で0.4%程度と比較的高い水準で維持されてきている。もっとも、新型コロナウイルスの影響が長期化した場合の与信費用への影響には注意が必要である。
 - (2) 厳しい競争環境から貸出金利の減収基調が続く一方、経費削減や有価証券利息配当金の増収により実質コア業務純益は20/3期54億円と3期連続で増益となった。足元では新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた事業者への資金繰り支援で、中小企業向けを中心に貸出が大幅に伸びており、貸出金利への寄与が見込まれる。ただし、20/3期下半期の株式市況などの急激な変動を受け、有価証券ポートフォリオを見直したことから、21/3期は利息配当金へ下押し圧力がかかるとJCRはみている。
 - (3) 金融再生法開示債権比率は20年6月末で2.65%。景況感の悪化などを背景に、債務者区分を保守的に引き下げてきた影響を含むものの、18年3月末の1.21%からは上昇している。与信費用は、19/3期に19億円と当行としては比較的多額の計上となったが、それ以降は落ち着いて推移している。
 - (4) 有価証券運用においては、株式や投資信託、為替リスクを取った外貨建債券など比較的利回りの高い資産の構成比が高い。パフォーマンスの悪化したエクイティ系資産の残高削減などを進めたが、価格変動のリスク量は資本対比でみて大きい。20年3月末のその他有価証券の評価損益は一時的に含み損となった。有価証券でのリスクテイクの状況を今後も注視していく必要がある。
 - (5) 20年6月末の連結コア資本比率は12.16%。一般貸倒引当金などを控除した調整後でも、格付「A」の地域銀行の中でも上位にある。
6. 格付据え置きについて
格付据え置きにつきましては、当行の健全性と透明性が適正に評価されたものと考えております。引続き、健全性を維持するとともに地域金融機関としてお客さまの多様なニーズにお応えできるよう努めてまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ先
総合企画部 : 本島
電話 076-424-1219